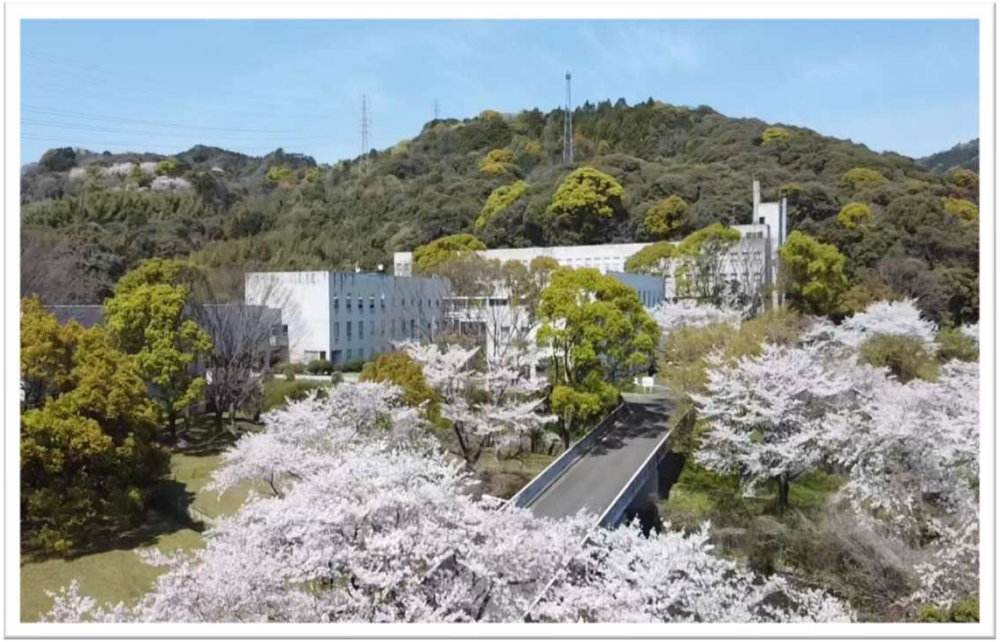
資料3

令和5年度 第1回佐賀県教育センター運営協議会



＜ 説明資料 ＞

1 令和5年度佐賀県教育センター方針

2 令和4年度事業評価結果及び
令和5年度事業評価計画について
(1) 研修課
(2) 教育支援課

２ 令和4年度事業評価結果及び令和5年度事業評価計画について

（１）研修課

・総合企画担当
・教職研修担当

令和4年度　研修課　事業評価　結果

番号	事業名	評価項目	指標	評価結果	備考
1	必須研修	初任者研修受講者の評価	平均3.4以上	達成（3.75）	受講者306名
		中堅教諭等資質向上研修受講者の評価	平均3.4以上	達成（3.56）	受講者156名
		2年目研修受講者の評価	平均3.4以上	達成（3.88）	受講者320名
		3年経験者研修受講者の評価	平均3.4以上	達成（3.73）	受講者329名
		養護教諭研修受講者の評価	平均5.1以上	達成（5.61）	受講者62名
		教育行政職員研修受講者の評価	平均5.1以上	達成（5.21）	受講者539名
		職務別研修受講者の評価	平均5.1以上	達成（5.21）	受講者1229名
		課題別研修受講者の評価	平均5.1以上	達成（5.51）	受講者207名

※評価はアンケート結果（経験年数別研修は4件法、その他は6件法）による

※職務別研修、課題別研修の受講者数には無回答者を含む延べ人数を計上

令和4年度　研修課　事業評価　結果

番号	事業名	内容・評価項目	指標	評価結果	備考
2	希望等研修	希望等研修受講者の評価	平均5.1以上	達成（5.37）	受講者3,263人
8	ｲﾝﾀｰﾈｯﾄ活用	教育センターWebからの情報提供 教育センターWebの総アクセス件数	年間アクセス数 350万件以上	達成 （511万件）	

※希望等研修の受講者数には無回答者を含む延べ人数を計上

令和5年度　研修課　事業計画

研　修　課〈総合企画担当〉

必須研修

●初任者研修
校外研修１３日のうち、共通研修６日と選択研修１日を実施する。

●中堅教諭等資質向上研修
校外研修１０日のうち、共通研修６日と自己課題解決研修（選択研修）４日を実施する。

●２年目研修
校外研修３日のうち、フォローアップ研修１日と選択研修２日を実施する。

●３年経験者研修
校外研修３日のうち、全校種合同研修会１日と企業福祉施設等体験研修２日を実施する。

●養護教諭経験年数別研修
経験年数に応じた各研修を実施する。
・新規採用養護教諭研修４日　　・養護教諭２年目研修２日
・養護教諭３年経験者研修２日　　・中堅養護教諭資質向上研修２日

●教育行政職員研修
・教育行政職員（新規採用職員・主事・主査・事務主任・事務長・統括事務長等）を対象とした各研修を実施する。

研　修　課〈教職研修担当〉

必須研修（職務別研修・課題別研修）

●職務別研修

教職員の職務に応じた専門的な知識や技能の向上を図るために、職務別に実施する。

●小学校新任理科担当教諭研修

・令和２年度より、対象者を「初めて理科の授業を行う教諭」として、１日研修を実施する。
・令和４年度より、繰り返し確認が必要な内容をオンデマンド研修で提供し、半日の集合研修を行う。
・佐賀市、佐賀市を除く東部地区、西部地区、北部地区の４地区に分け、同内容を４回実施する。

●中・高新任理科教諭研修

・新規採用の理科担当教諭を対象として、１日研修を実施する。
・令和４年度より、繰り返し確認が必要な内容をオンデマンド研修で提供する。

●小学校新任家庭科担当教諭研修

・令和４年度に、対象者を「初めて家庭科の授業を行う教諭」として、衣生活と食生活の分野についてそれぞれ半日研修を新設した。
・東部地区、西部・北部地区の２地区に分け、同内容を２回ずつ実施する。
・食生活の分野については、リモート研修の形態とし、受講者は所属校の家庭科室において実習を行い、様子を配信する。

研　修　課〈教職研修担当〉

希望等研修【本講座･公開講座･出前講座】

【Ｒ５年度】
「教科・領域等の専門的かつ実践的指導力の向上を図る」ことを目的とし、
本講座　101本、公開講座　１本、出前講座　１本（計103本）を設定

◆オンライン研修を充実
著名な講師陣によるリモート研修を２６本、オンデマンド研修を９本実施予定

◆スーパーティーチャーによる授業講座（１７本）を実施予定

◆「新しい教師の学び」が始まることに伴い、多様な研修の充実を図る
・高校教職員向け…専門学科高校等就職指導講座、高校芸術科講座、高校情報科講座
・複数校種対応…日本語指導充実講座、消費者教育講座、学校防災講座

研　修　課〈教職研修担当〉

インターネット教育活用事業

【Ｒ５年度】
　昨年度に引き続き、教育センターWebにより、教育に関する最新情報や研究成果等を発信し、県内教職員の「教育情報ポータルサイト」としての活用を目指す。

◆教育センターWebサイトの運用
　・ Web運用総括を教職研修担当で行い、ページの更新は各担当で行う
◆研修情報の発信（実施要項、緊急時の連絡等）
◆各種教育情報の発信
◆佐賀県教育センター内の研究物や指導案を検索するための「ＳＡＧＡせ～る指導案」を提供
◆教育センターWeb上の受講者専用ページにて、オンデマンド研修を実施

要望にお応えし、随時更新をしています！

研　修　課

研修に係る確認事項

◆受講に必要な連絡等

・リモート情報等の受講者への必要な連絡は、職務別研修・課題別研修・希望等研修ともに「新教育情報システム(SEI-Net)メール」で行う。情報共有のため、教頭先生（副校長先生）をCCに入れて連絡を行う。

◆緊急時の連絡等

・台風や大雨等の悪天候による研修の延期や変更の連絡は、教育センターWebで行う。原則、文書や電話による連絡はしない。

※「緊急時の連絡」「近日実施予定の研修」「研修実施要項」に反映

参考資料

研修評価の指標について

100点満点中の85点を高評価の基準としている。

4件法

評価項目（4つ）

・そう思う	4点
・だいたい思う	3点
・あまり思わない	2点
・思わない	1点

4点満点

4点満点の85%　→　3．4

評価指標　3．4

6件法

評価項目（6つ）

・とてもそう思う	6点
・そう思う	5点
・少しそう思う	4点
・あまりそう思わない	3点
・そう思わない	2点
・全くそう思わない	1点

6点満点

6点満点の85%　→　5．1

評価指標　5．1

（2）教育支援課

・研究調査担当
・生徒支援担当

令和4年度　教育支援課　事業評価　結果

番号	事業名	内容・評価項目	指標	評価結果	備考
4	プロジェクト研究	プロ研委員、センター所員の取組意欲、理解度、活用意識	平均3.4以上	達成（3.96）	調査対象 委員4名 所員2名
5	個別実践研究	センター所員の取組意欲、理解度、活用意識	平均3.4以上	達成（3.85）	調査対象 所員24名
6	特命研究	センター所員の取組意欲、理解度、活用意識	評価しない	―	
7	学校支援	教育相談・生徒指導、特別支援教育に係る学校支援 支援校教員の理解度、効用感、活用意識	平均3.4以上	達成（3.88）	調査対象 1,920名 支援実施 105件

令和4年度　教育支援課　事業評価　結果

番号	事業名	内容・評価項目	指標	評価結果	備考
3	長 期 研 修	長研生の評価	平均3. 4以上	未達成（3.32）	調査対象 長期研修生2名
		研修5年後の貢献度	自身のキャリアアップ、研究成果の還元	達成	調査対象 5年経過研修生 7名
9	図書資料室管理	県内教職員の利用の促進 教科書展示会の実施	評価しない	―	
10	広報業務	教育センターメルマガ「ﾐﾈﾙﾊﾞ」の発信	評価しない	―	

令和5年度　教育支援課　事業計画　〈研究調査担当〉

プロジェクト研究

中学校音楽 中学校美術	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進を図るためのコンテンツ開発

個別実践研究

小・中学校 各教科・領域等	基礎期の教員の指導力向上に資するコンテンツ開発
	「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげるコンテンツ開発

【プロジェクト研究】中学校：音楽科、美術科

研究主題

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進を図るためのコンテンツ開発

○プロジェクト研究コンテンツ…令和４年度研究成果物を補完するコンテンツを開発、作成予定　※以下はＲ４研究成果物

令和４年度　佐賀県教育センター　プロジェクト研究（中学校音楽科教育研究委員会）

中学校音楽科

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた

授業づくり Q&A

中学校音楽科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の視点と指導と評価のポイントについて，Q&A にまとめました。

日々の授業づくりに御活用ください。

主体的・対話的で深い学び　音楽的な見方・考え方　題材をデザインする　授業をデザインする　学習評価　授業と行事の関わり

♪主体的・対話的で深い学び		
はじめに	音楽科の学習における「主体的・対話的で深い学び」とは，どのようなものですか。	P.1
♪音楽的な見方・考え方		
Q１	「音楽的な見方・考え方」とは，どのようなものですか。	P.4
Q２	深い学びの鍵として「見方・考え方」を働かせるとは，どのようなことですか。	P.5
♪題材をデザインする		
Q３	指導計画を作成する際のポイントは，どのようなものですか。	P.6
Q４	領域・分野の関連を図るためのポイントは，どのようなものですか。	P.8
Q５	〔共通事項〕とは，どのようなものですか。	P.9
Q６	題材をデザインする際のポイントは，どのようなものですか。	P.11
Q７	音楽科の学習における「知識」とは，どのようなものですか。	P.15
♪授業をデザインする		
Q８	学習の見通しと振り返りのポイントは，どのようなものですか。	P.16
Q９	学習活動を工夫するポイントは，どのようなものですか。	P.18
Q10	１人１台端末を活用するポイントは，どのようなものですか。	P.19
Q11	「音楽を形づくっている要素」を知覚・感受できるようにするためには，どのようにしたらよいですか。	P.23
♪学習評価		
Q12	学習評価のポイントは，どのようなものですか。	P.25
♪授業と行事の関わり		

授業づくりＱ＆Ａ（中音）

中学校美術科　「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた

授業改善サポートＱ＆Ａ

中学校美術科における「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の視点を基に、授業づくりのポイントをまとめました。
気になる項目を確認し、日々の授業づくりにぜひお役立てください。

Q1	授業づくりで、まず考えるべきことは？	P1
Q2	年間指導計画作成のポイントは？	P3
Q3	〔共通事項〕の指導のポイントは？	P5
Q4	題材を考えるときのポイントは？	P7
Q5	豊かに発想し構想を練るためのポイントは？	P9
Q6	話合い活動のポイントは？	P11
Q7	ＩＣＴ活用のポイントは？	P12
Q8	学習評価のポイントは？	P13

授業改善サポートＱ＆Ａ（中美）

令和４年度　佐賀県教育センター　プロジェクト研究（中学校音楽科教育研究委員会）

事例１　４小節で表そう！　富士町の魅力

第１学年　表現（創作）

♪本題材で扱う学習指導要領の内容
第１学年　Ａ表現(3)創作
ア　創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら，創作表現を創意工夫すること。
イ(ア)　音のつながり方の特徴
ウ　創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な，課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること。
〔共通事項〕(1)ア
リズム，速度，旋律

♪教材
「My Melody」（教育芸術社）
教師が学習者用デジタルコンテンツを用いてつくった参考作品

学習指導案
ワークシート

１　題材の目標と評価規準

(1)　題材の目標
○　音のつながり方の特徴について理解するとともに，創意工夫を生かした表現で旋律をつくるために必要な課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けている。
○　リズム，速度，旋律を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，知覚したことと感受したことの関わりについて考え，創作表現を創意工夫する。
○　音のつながり方の特徴を生かして旋律をつくることに関心をもち，音楽活動を楽しみながら，主体的・協働的に創作の学習活動に取り組むとともに，音楽に対する感性を豊かにする。

(2)　題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知　音のつながり方の特徴について表したいイメージと関わらせて理解している。 技　創意工夫を生かした表現で旋律をつくるために必要な課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付け，創作で表している。	思　リズム，速度，旋律を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，知覚したことと感受したことの関わりについて考え，どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもっている。	態　音のつながり方の特徴を生かして旋律をつくることに関心をもち，音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。

１学期に行ったリズム創作の学習では，音符と休符を組み合わせて創意工夫を生かしたリズムを創作することが

授業実践事例（中音）

【個別実践研究】小学校：国語科、社会科、算数科、理科、外国語科、図画工作科、学校保健
中学校：国語科、社会科、理科、道徳科、技術・家庭科（家庭分野）

研究主題

基礎期の教員の指導力向上に資するコンテンツ開発

○個別実践研究コンテンツ（一部）

授業づくりのポイント　チェックシート　―中学校英語科―

このチェックシートは、授業づくりを行う際に、その骨子となる基礎的・基本的なポイントを示しています。
先生方御自身の取組とチェックシートの項目を照らし合せて、授業づくりや授業改善にお役立てください。

単元デザイン

1　単元の指導と評価の計画を立て、授業に臨んでいる。
☐ YES　☐NO　⇒「単元構成の仕方」へ　「単元デザイン FIRST STEP」へ（coming soon!）

授業デザイン

2　英語で授業を行っている。
☐ YES　☐NO　⇒「授業デザイン FIRST STEP」へ（coming soon!）

3　単元の目標を踏まえて、本時の目標を設定し、生徒に示している。
☐ YES　☐NO　⇒「授業づくりのステップ 1・2・3」へ

4　新しい言語材料を指導するときは、文脈や場面の中で導入している。
☐ YES　☐NO　⇒「授業デザイン FIRST STEP」へ（coming soon!）
「これからの中学校英語科における授業づくり―指導と評価編―」へ【事例2、3】

5　コミュニケーションを行う目的・場面・状況を具体的に設定し、言語活動を行っている。
☐ YES　☐NO　⇒「授業デザイン FIRST STEP」へ（coming soon!）
「これからの中学校英語科における授業づくり―指導と評価編―」へ【全事例】

6　教科書本文を扱うときは、「必要な情報」や「概要」、「要点」を捉える言語活動を行っている。
☐ YES　☐NO　⇒「授業デザイン FIRST STEP」へ（coming soon!）
「これからの中学校英語科における授業づくり―指導と評価編―」へ【事例6、7】

7　タブレット端末などを活用して、個別に学習する場面を設定している。
☐ YES　☐NO　⇒「1 人 1 台端末の活用 アイデア集」へ

8　ペアやグループなどで、考えや意見などをシェアリングする（話し合う）場面を設定している。
☐ YES　☐NO　⇒「授業づくりのステップ 1・2・3」へ

9　本時の学習内容のまとめを行っている。
☐ YES　☐NO　⇒「授業づくりのステップ 1・2・3」へ

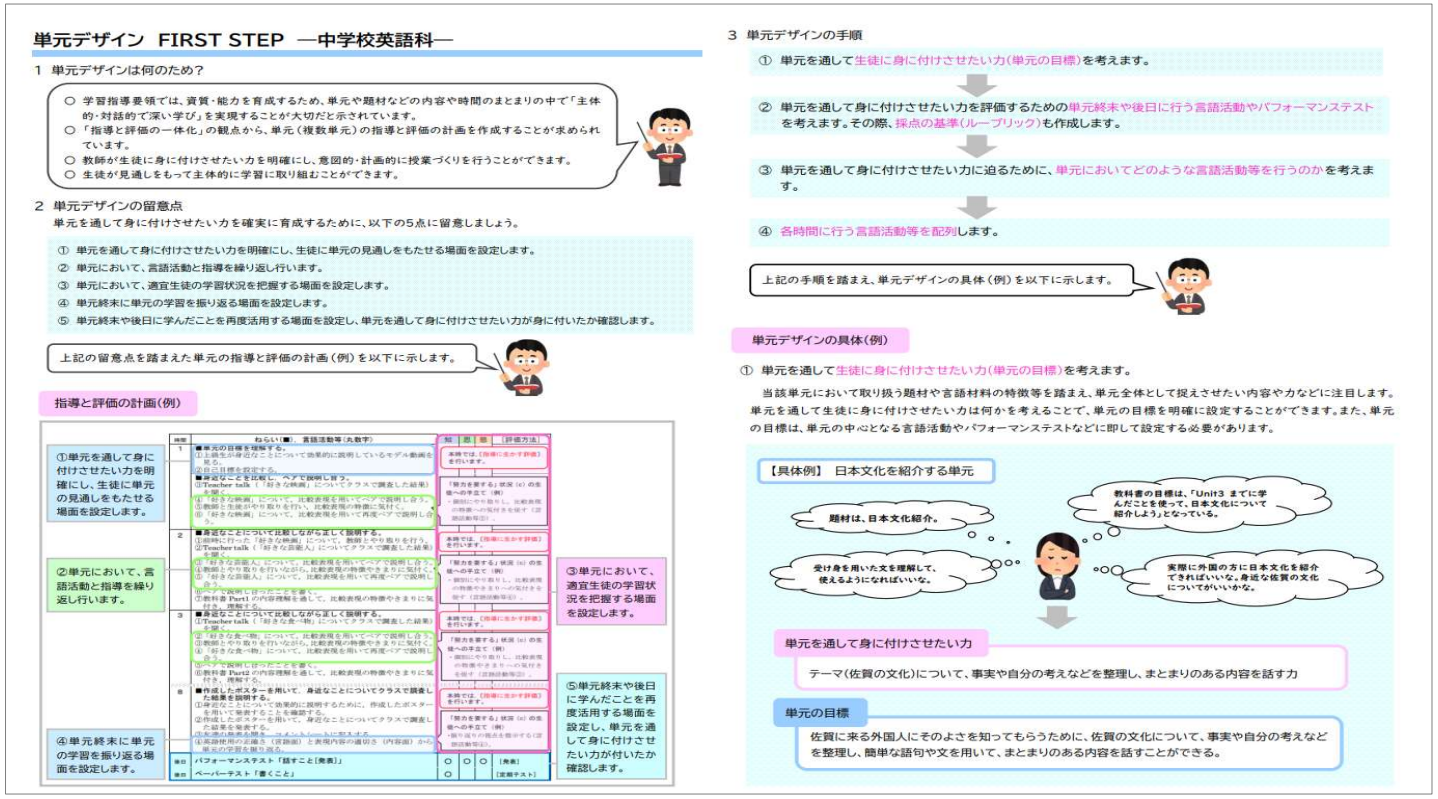
10　本時の振り返りを行っている。
☐ YES　☐NO　⇒「授業づくりのステップ 1・2・3」へ

学習評価

11　単元を通して、適宜生徒の学習状況を把握する場面を設定している【指導に生かす評価】。
☐ YES　☐NO　⇒「学習評価の進め方」へ　「学習評価 FIRST STEP」へ（coming soon!）

12　単元を通して指導したことを、単元終末や後日に評価する場面を設定している【記録に残す評価】。
☐ YES　☐NO　⇒「学習評価の進め方」へ　「学習評価 FIRST STEP」へ（coming soon!）

単元づくりのポイントチェックシート



単元デザイン　FIRST STEP　―中学校英語科―

1　単元デザインは何のため？

○ 学習指導要領では、資質・能力を育成するため、単元や題材などの内容や時間のまとまりの中で「主体的・対話的で深い学び」を実現することが大切だと示されています。
○「指導と評価の一体化」の観点から、単元（複数単元）の指導と評価の計画を作成することが求められています。
○ 教師が生徒に身に付けさせたい力を明確にし、意図的・計画的に授業づくりを行うことができます。
○ 生徒が見通しをもって主体的に学習に取り組むことができます。

2　単元デザインの留意点
単元を通して身に付けさせたい力を確実に育成するために、以下の5点に留意しましょう。

① 単元を通して身に付けさせたい力を明確にし、生徒に単元の見通しをもたせる場面を設定します。
② 単元において、言語活動と指導を繰り返し行います。
③ 単元において、適宜生徒の学習状況を把握する場面を設定します。
④ 単元終末に単元の学習を振り返る場面を設定します。
⑤ 単元終末や後日に学んだことを再度活用する場面を設定し、単元を通して身に付けさせたい力が身に付いたか確認します。

上記の留意点を踏まえた単元の指導と評価の計画（例）を以下に示します。

指導と評価の計画（例）

①単元を通して身に付けさせたい力を明確にし、生徒に単元の見通しをもたせる場面を設定します。
②単元において、言語活動と指導を繰り返し行います。
③単元において、適宜生徒の学習状況を把握する場面を設定します。
④単元終末に単元の学習を振り返る場面を設定します。
⑤単元終末や後日に学んだことを再度活用する場面を設定し、単元を通して身に付けさせたい力が身に付いたか確認します。

3　単元デザインの手順
① 単元を通して生徒に身に付けさせたい力（単元の目標）を考えます。
② 単元を通して身に付けさせたい力を評価するための単元終末や後日に行う言語活動やパフォーマンステストを考えます。その際、採点の基準（ルーブリック）も作成します。
③ 単元を通して身に付けさせたい力に迫るために、単元においてどのような言語活動等を行うのかを考えます。
④ 各時間に行う言語活動等を配列します。

上記の手順を踏まえ、単元デザインの具体（例）を以下に示します。

単元デザインの具体（例）

① 単元を通して生徒に身に付けさせたい力（単元の目標）を考えます。
当該単元において取り扱う題材や言語材料の特徴等を踏まえ、単元全体として捉えさせたい内容や力などに注目します。単元を通して生徒に身に付けさせたい力は何かを考えることで、単元の目標を明確に設定することができます。また、単元の目標は、単元の中心となる言語活動やパフォーマンステストなどに即して設定する必要があります。

【具体例】　日本文化を紹介する単元

題材は、日本文化紹介。
教科書の目標は、「Unit3 までに学んだことを使って、日本文化について紹介しよう」となっている。
受け身を用いた文を理解して、使えるようになればいいな。
実際に外国の方に日本文化を紹介できればいいな。身近な佐賀の文化についてがいいかな。

単元を通して身に付けさせたい力
テーマ（佐賀の文化）について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある内容を話す力

単元の目標
佐賀に来る外国人にそのよさを知ってもらうために、佐賀の文化について、事実や自分の考えなどを整理し、簡単な語句や文を用いて、まとまりのある内容を話すことができる。

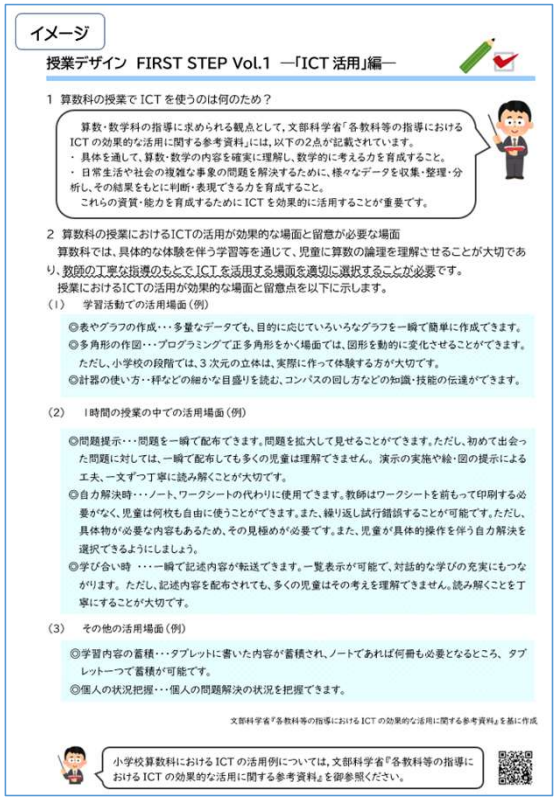
単元デザイン　ＦＩＲＳＴ　ＳＴＥＰ

【個別実践研究】小学校：国語科、社会科、算数科、理科、外国語科、図画工作科、学校保健
中学校：国語科、社会科、理科、道徳科、技術・家庭科（家庭分野）

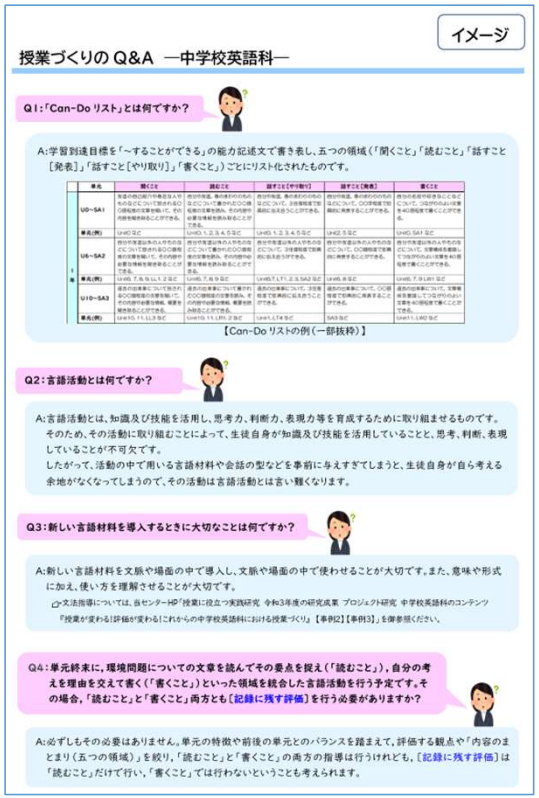
研究主題

基礎期の教員の指導力向上に資するコンテンツ開発

○個別実践研究コンテンツ（一部）



授業デザイン ＦＩＲＳＴ ＳＴＥＰ



授業づくりのＱ＆Ａ

R4の研究成果物を活用した学習指導案

【個別実践研究】
小・中学校各教科・領域等における公開授業

下記の学校で、センター所員による公開授業を実施します。

事務所	校種	教科名	場所	単元名	時期
東部	小学校	国語	佐賀市立南川副小学校	6年 領域「読むこと」	9月
北部	小学校	算数	唐津市立浜崎小学校	6年 「円の面積」	9月
東部	小学校	算数	神埼市立西郷小学校	3年 「あまりのあるわり算」	9月
西部	中学校	国語	白石町立白石中学校	2年 「魅力的な提案をしよう」	10月
東部	中学校	理科	鳥栖市立鳥栖中学校	1年 「物質のすがた」	10月

※申込等の詳細については、7月末までに各学校へ周知します。

教育支援課 〈研究調査担当〉

○図書資料室管理

「教育情報の共有化」を目指して、教育に関する諸資料を収集し、情報を提供することで、県内教職員の教師力、学校力向上を支援する。

○広報業務

教育センターWeb及び登録した個人に、教育センターの研修、研究、支援等に関する情報を提供する。
毎月１回以上、時宜を得た情報を配信し、県内教職員の研修をサポートする。

令和5年度　教育支援課　事業計画〈生徒支援担当〉

教育相談・生徒指導

R5（個別実践研究）

「小・中学校における発達支持的生徒指導の充実に向けて」

ー児童生徒の自発的・主体的発達を促すための職員向けリーフレットの作成ー

R3（個別研）

「情報社会を生きる児童生徒のよりよい人間間係づくり」

【いじめ問題・不登校の未然防止と根本的な解決 に資する研究】

特別支援教育

R5（個別実践研究）

「小・中学校における教育的ニーズに応じた支援につながる校内支援体制の構築と充実を目指して

ー特別支援教育コーディネーターが役割を円滑に遂行するためのリーフレットの作成ー

R3（個別研）

「自立活動の時間における、児童生徒の『できる』を増やす授業づくり」

【特別支援教育の推進に資する研究】

R4（個別研）　※教育相談・生徒指導、特別支援教育

「小・中学校における児童生徒の安心につながる教育相談の充実に向けて　」

研究成果については、随時、学校支援や研修講座で活用し、学校への周知を図る

教育支援課　〈研究調査担当・生徒支援担当〉

主体的な取組へ誘う学校支援

- 学習状況調査の分析・活用
- 「Q－U」、特別支援教育　等

教員自身の「主体的・対話的で深い学び」を実現するとともに、カリキュラム・マネジメントが機能し、各学校の自立した校内研究が営まれるよう支援

「主体的・対話的で深い学び」の視点

☛ **主体的な学び**
振り返りと見通し、取組の継続と見直し
機能するPDCAサイクル

☛ **対話的な学び**
教員同士の対話から生まれる気付き、
考えの広がり、連携・協働

☛ **深い学び**
本質や意義の理解、課題解決を図ろうと
する意欲の喚起

- 「主体的・対話的で深い学び」の視点を取り入れた学校支援の実施
- 学校支援希望調査の早期実施と、学校の主体性を促す事前からの関わりの充実
- 学校の実情に応じた研修方法の選択制の実施
- 校区内の小・中学校による合同研修の奨励（特別支援教育）

令和5年度　教育支援課　事業の構想

研究調査事業

○ 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげるコンテンツづくり
○ 経験年数の浅い先生の悩みに応えるコンテンツづくり

学校支援

○ 学力向上：学習状況調査の自立的な分析・活用につなげる研修の提供
○ 特別支援教育：多様な実態・教育的ニーズに即した支援の在り方についての提案
○ 教育相談・生徒指導：「Q-U」の自立的な分析・活用につなげる研修の提供